

造兵廠で製造されていたもの

造兵廠では弾丸に使用する各種火薬類製造の他に、終戦時の資料によれば、主に陸軍で使用する航空機用機関砲・機関銃の弾丸組立てと、銃弾・爆弾などの部品の製造・加工が行われていました。

	製造品	月間生産能力	月間実績
弾丸	20ミリ機関砲弾（完成品）	150万発	100万発
	12.7ミリ機関砲弾（完成品）	200万発	100万発
銃砲弾の火薬・部品等	導火爆索	200万発	200万発
	点火管索	10万個	8万個
	起爆剤	1トン	1トン
	導火雷管点火管の組立	25万個	—
	信管筒尾の填実	45万個	—
	銃用雷管	6000万個	—
	信管雷管	50万個	—
	雷汞爆粉窒化鉛	2500キロ	—

（防衛研究所図書館所蔵資料より作成）

これらの製造品のうち、雷管は弾丸を発射するための火薬を詰めた部品で、信管は弾丸に詰められた火薬を目標命中時に爆発させる部品のことです。その他に、小銃の弾丸、信号弾、照明弾、地雷、手榴弾などの組立てや、照明弾用のパラシュートの生産なども行っていました。太平洋戦争末期には風船爆弾の部品が製造され、アメリカ本土攻撃に使用されました。その他に、金属のかわりに陶器で作られた地雷・手榴弾の製造にも関わっていました。



①20mm機関砲弾の弾丸部分

②導火索を作った麻ひも

⑤風船爆弾の部品

⑥対ジライ (対地雷)
(九三式対人地雷 径25cm位)

③弾薬箱

④弾薬箱

⑦陶製手榴弾

（①②③④⑦は上福岡市立歴史民俗資料館蔵、①⑦は火薬は入っていません。
⑤⑥は福岡県立学校高等科の学徒動員経験者の聞き取りを基に作図しました。）